



大明小学校

校長室から

令和2年8月28日

No. 9

文責 校長 穴山 直樹

自分の命は自分で守る



8月20日から始まった2学期。学校でも感染症予防と同時に熱中症予防に取り組んでいる毎日です。保護者の皆様方には様々な対応にご理解ご協力をいただき、本当にありがとうございます。まだまだ残暑厳しい毎日ですが、朝夕の吹くかぜのなかに、ほんの少し秋の空気を感じるようになりました。また、虫の声も聞かれ始め、季節は確実に進んでいます。

さて、9月1日は「防災の日」です。そしてこの日を含む1週間（8月30日～9月5日）が「防災週間」と定められています。本校でも本日避難訓練を実施いたしました。今回は関東甲信・静岡沖周辺で起こりうる地震の状況を知り、その対応としていつでもどこでも自分の身を守る行動ができるようにするために訓練を実施しました。子どもたちには「**おさない・かけない・しゃべらない・もどらない**」（おかしも）という言葉で避難の心構えを指導しました。これは、**落ち着いて、安全に、周囲からの指示をよく聞いて、後戻りしないで避難する**という意味です。

災害はいつ起きるかわかりません。授業中、教室で担任の指示が届く場にいるときだけでなく、休み時間、運動場で遊んでいるときかもしれません。停電や家屋の損壊により、放送設備が使用できないかもしれません。また、家庭や地域で子どもたちだけで活動している場合もあります。また、一人である場合もあります。このように様々な場合を想定しておかなければなりません。そのため、学校ではどんな場合でも「**自分の命を自分で守ることのできる子ども**」を育てたいと願っています。

- ①先生の指示が届かなくても、自分の力で周囲の状況を確認し、どこへ避難したら安全か判断する。
- ②高学年の児童は周りに低学年の子や困っている子がいたら、声掛けをして一緒に避難する。

避難訓練では「おかしも」に加えてこの2点についても子どもたちに話しました。ご家庭でも話題にさせていただけるとありがたいです。どうぞよろしくお願いいたします。



あいさつをさわやかに笑顔で

1学期末に教育活動や児童の生活の様子について保護者の皆様方にアンケートにお答えいただきました。その中で子どもたちの地域でのあいさつに課題があることを知ることができました。「**学校でできていても地域ではあんまりできていない**」とか「**あいさつをする子としない子の差が大きい**」などのご意見がありました。私も1学期から朝の交通指導で、どの子にも目を見てあいさつをするように心がけていますが、**さわやかに笑顔であいさつを返してくれる子どもが確実に増えた**と感じるとともに、私と視線があっても**全く声も出さず、表情も変わらず、通り過ぎていってしまう子も数人いる**のも事実です。しかし、そんなときも**あきらめずに次の日もその次の日も笑顔であいさつをするようにしています**。地域でもぜひ、**あきらめずに声掛け**をよろしくお願ひします。今年度はコロナの影響で保護者の方々と親しく情報交換ができる機会（PTA 総会・授業参観・家庭訪問等）が持てず、残念です。家庭や地域でも**もっともっと大明小学校のこどもたちのよさが発揮されるようなアイデア**がありましたら、ぜひ、学校にご連絡いただけるとありがたいです。**学校と家庭・地域が連携してあいさつの輪が広がる活動**ができればと願っています。